

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(中間評価)

課題名「既存建築物の有効活用に関する研究開発

- ユーザー要望及び社会ニーズに対応した目的別改善改修技術の開発 - 」

1. 主な所見

・所見

- ・本課題の主要部分を占める技術要素の研究で、長期的観察を有する実験についても、すでにかんがりの明確な方向性が得られていることから、研究開発については順調に進捗していると言える。
- ・過去2年間の研究は、ほぼ順調に行われており、学会誌への投稿、学会発表などにより成果の公表も行われており、当初目的とした研究成果が期待できると思われる。
- ・精緻なデータの整理とフォーマットが形成されていると思われる。ユーザーおよび社会ニーズという最終目標のためにより分かりやすい整理を期待したい。
- ・これまで研究開発に傾注してきたエネルギーを持続すれば、目標とする成果は十分に達成できるといえる。

・所見

- ・研究開発担当者の変更(人員減)があったことに起因する、研究者の負担増が感じとれる。このことから、エフォートに若干の修正を要するといえるが、不適切というほどではない。
- ・成果の取りまとめに向けて経費と支援体制が十分かどうか少々心配な点もあるので考慮いただきたい。

・所見

- ・残期間中に目標を達成する可能性が大きいと判断される。修正すべき点は特にないが、得られた成果の普及と実用化について、共同研究を進めている産学の機関と早々に検討を開始すべきと考える。
- ・目標とした成果に向けて適切な計画の下に実施されていると判断される。住宅の改善改修は、社会的な環境と個々人の日常の幸福に密接に関係する課題であるため、研究成果の普及に努めてもらいたい。

・所見

- ・アンケートなどの実施には極めて困難な面が多い。したがって限られた情報をもとに整理することの重要さがあるので、本成果の取りまとめに当たっては配慮されることを期待したい。

・所見

- ・耐久性、美装性、利便性の改善・向上が要望の基本になっています。この点に関して、改修技術、調査診断技術が研究開発され多くの資料が既にあります。価格については、ほとんど触れていません。技術(理論)と価格(実質)が連動していないのが実際です。特に、耐久性に関わる下地調整費が、理論と適合性がないのです。
- ・ユーザーの不満は全て、施工者側にあります。情けない話ですが、施工者側の経済論理に委ねられているのです。建設産業界にとっては大問題ですが、今度の研究成果としてまとめ、提案するには根拠を確かなものにする必要があります。主要事項の提案がなされれば、すば

らしいと思います。

・ 所見

- ・ 粉塵、騒音、振動が大きく表面化し、現状は施工者が広報で対応しています。定量化できること、低減技術、工法の開発に役立つ提案が必要。環境問題で今後クローズアップされるのが臭気です。労働安全衛生に関係しますが、有機溶剤使用の対応技術です。既に有機化合物過敏症問題が出ていますが、無溶剤化、水系化への対応技術が要求されます。

2. 主な所見に対する回答

・ 所見 に対する回答：

高い評価を戴き有り難うございます。最終成果の取りまとめに当たっては、ユーザーおよび社会ニーズを意識し、分かりやすく適切な形で公表できるよう努力する所存です。

・ 所見 に対する回答：

研究開発の体制については、共同研究等による研究開発の分担、業務の効率的なアウトソーシング等により、最終成果の取りまとめを適切に効率的に実施するよう検討致します。

・ 所見 に対する回答：

成果の普及につきましては、共同研究を活用した技術の普及、書籍や電子媒体等を通したユーザーへの情報発信等について早々に検討し、適切な実施を図りたいと思います。また、実験結果等についても関連する学協会への論文等の形で積極的に公表したいと思います。

・ 所見 に対する回答：

ご指摘の通り、近年の個人情報の流出の問題等から、回収率の高いアンケート調査の実施が難しくなっています。本研究で得られた調査の結果については、この点を十分考慮し、ニーズの類型化や対応する技術の検討において改めて精査し、ユーザーおよび社会のニーズを適切に反映出来るよう配慮したいと思います。

・ 所見 に対する回答：

価格の問題については、取り扱いが難しい面もございますが、可能な範囲で工事価格に関する標準的な考え方を検討する所存でございます。例えば、従来の一式見積り、あるいは坪単価による見積りのような曖昧な形ではなく、工事の内容、内訳を明確にすることによって、ユーザーと施工者間の相互の理解と信頼関係が得られるような仕組みを提案したいと考えております。

・ 所見 に対する回答：

貴重な情報を頂き有り難うございます。現在計画している実験においても、臭気、騒音等の問題を取り上げ、定量的な評価と情報の発信を行う予定です。無溶剤化、水系化の問題等については今後の検討課題としたいと思います。